

**The
Japan
Interior
Designers'
Association**

JID

no. 69

1975. Mar. 20th

昭和50年 3月20日発行

目 次

木材の有効利用	浅野猪久夫	1
中部会員の声		2~6
かるてっと		7
だんわしつ	八代美智子	8~9
訪問記		10~12
賛助会員紹介・編集後記		13~14

木材の有効利用

名古屋大学農学部 木材加工学科教授

浅野猪久夫

インテリアに於て、日本人は特に木材と関り合いが深い。古来、適材適所の文字通り木材を熟知して使用している。それだけ木材が使い易く日本の風土に適した万能材料であったのだろう。このように木材を使いこなした木匠や工芸家は真に木を知っていたものだろう。

ヒノキに象徴される木材は構造材、造作材あるいは彫刻用材としての基材であると同時に魅力的な表面を形成する材料でもある。このような多能性をもつ木材は資源的に少なくなり、銘木として高価になる一方、労働賃金も上って、施工し易い低価格の材料が歓迎されるなど諸要因の変動に対応して色々な新材料がインテリアに提供されるようになった。しかしどんな材料でも木材ほどの複合性能をもつ材料は恐らく出来ないのではなからうか。新旧材料の交替は時の推移によるが、工学的合理性が破端を来たして公害を招くと同様、古い物の良さが損われずに新材料の良さがのみが導入されるとは考えられない。数年前から木材に関心をもつ医学・工学・農学の研究者グループが集って木材の良さを解き明かそうと研究を始めたのは単に木材への郷愁のみではない。生活環境が人間の諸感覚を

通じて生理にどんな影響を与えるかを何らかの方法で知り、より良い住いの条件を考えるためであった。

視感覚と木材表面：木材など天然材料を工学的に利用するときは材質の不均一性が敬遠されるが、他面、造形的にユニークな味を出すのも不規則性である。愛知医大の鈴木教授の話によると、高速道路の擁壁や中央分離帯が樹木などの植こみになっている所に比べ、人造の規則的パタンの場所での自動車事故が多いのは、同一パタンの動的繰返しによる眼疲労のためで、植生は一見同じようでも細かい枝葉の不規則性と光を和らげる作用が役立つのだそうだ。また同教授は学童机の表面と照明の反射輝度による眼疲労の関係の研究から、反射光が眼に入る照明位置では人工的艶消材料に比べても木材の方が遙かに眼疲労が少ないことを指摘している。自然の不規則なテクスチャをもつ木材表面では輝度斑が少なく、紫外線も吸収され易いことによるもののようだ。

温湿度感覚と木材：鼠算と言われるほど鼠の繁殖力は旺盛であるが、人工的に飼育するのは難しい事らしい。名大農学部の近藤教授は実験用小動物の飼育の名人である。教授の話を紹介しよう。最近まで鼠は木箱で飼育されていたが汚物の水洗乾燥に時間と手間が掛るので最近では殆どプラスチックに

替った。ところがエアコンディショニングした贅沢な環境の中でも繁殖が悪く失敗する例が多い。教授は苦心の末、箱の中に巣になる鮑屑や天然繊維材料を入れれば良いことに気付いた。十年も前は暖房の無い部屋でも巣の中は20℃前後の快適な温湿度が保たれていたからである。吸放湿性と保温性をもつ木質材料が少なくとも動物の生活環境に良い影響をもたらすことが分る。

触感覚と木材：日本人は床を素足で歩くとか、木製品の肌触りを楽しむなど、物と触覚で触れ合う習性が強い。よく磨かれた木材表面は微細な孔隙組織のため動摩擦係数と静摩擦係数との美が少ない。これが木材の保温性と相俟って、滑らかで温い肌触りを感じさせるのではないかと思う。

以上、感覚に対する木材の質的作用につき二、三の事例を紹介したが、このような感覚的效果をどのようなメジャーで表わすかは今後の課題である。空間造形を主体とするインテリアに、調和の良さと環境調節機能をもつ天然木質系材料の特性をどのように生かすか、そして人類全体の研究テーマとして、Living Comfortの命題に如何に取り組むか、インテリアデザイナーの方々の優れた思考能力に大きな期待をしたい。

マンションの場合

松 本 政 雄

マンション分譲の場合、間どりは殆どが今尚一つの形に造られ需要者の意向に副う室内を求めることは至難であり、生活形態に合せた自由な室内空間を創り得ないのは大きな欠陥である。若し生活形態なり内容にマッチした住空間の処理が需要者の意志によることが可能になれば、マンションはより快適なものになるであろうし、現状の中に見られるような幾多の無駄な見せかけの部分もなくなり、従来とは異なった意味で分譲価格も低下し得ることに思われる。これらは別段な着想でもなく、海外ではすでに行われていることなのに、日本のマンションではなぜ取り入れられないのであろう。

クライアントとしての売主の思考の彼我の相違にもよるか、またその場合に関与し得る立場のわれわれの側としても尚幾多の努力が必要であろう。

何れにしても、プロフェッショナルな立場を十分に活かして、より良好な環境の充足に寄与する方策を打出していくことは、インテリアデザイナーの当面の問題点であることが意識される処である。

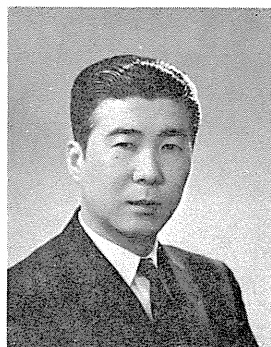


小 松 亮 一

昨年7月、当地金沢で、日本インテリアデザイナー協会と石川県インテリア産業協会の主催で「インテリア産業と地域性」に就いてのシンポジウムが開かれましたが、反響は強くその後、県・市・金沢商工会議所が中心となり、地域産業のあり方に就いての各業界との懇談会が重ねて開かれました。

その結果、デザインは狭い範囲の業界のものという考え方にとらわれず、広範な業種を対象にするほか、生活・住宅などにも関連する総合的「デザイン産業」として、金沢の伝統的都市環境から、デザイン拠点都市化を目標に、その実現へのステップを踏む方針となりました。

又、通産省の方針で地方デザイン開発センター（仮称）が本年7月設置予定であります。その指定地区として石川県が候補として有力視されております。（全国に4ヶ所）その予算措置として50年度は約2千万を計上、決定されたと報告されていますので、地元、各デザイン協会、学界、産業界をはじめ、中央の専門家を含めデザイン研究組織を具体的に作るよう積極的に活動を始めました。当地のJID会員もそのリーダーとして活躍を期しています。



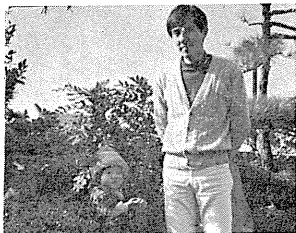
中 部 会 員 の 声

長 坂 信

私は現在刈谷木材工業㈱の企画部に勤務し、主として椅子類の商品開発を行なっております。時節柄、商品開発は販売増進の為の最重要事項の1つとして仕事量も多く、毎日多忙を極めております。とかくこの様な時期は仕事も雑になりやすく販売サイドからの要求等も我々デザイナーの造りたい物と、ほど遠い物も有りますが物の質を大切にするという考え方が大幅に見直されつつあるこの時期こそ、安定した良い品物を市場へ送り出す事がデザイナーの役割ではないかと思ひ出来るだけ自分のペースで納得のいく品物を造り出す様心掛けております。

最近では量産家具も大分品質が良くなりまして「安かろう、悪かろう」と言うイメージもかなり薄れて来ているのではないかと思います。やはり標準化されすぎて決まった物しか得られないと言う欠点もあります。これからは能率良く生産すると同時に色々な人の好みに合う様、多様化を計る事を考えて行かなければならないと思います。

「量産と多様化」この相反する事柄をうまくかみ合わせて行くのが我々メーカーのデザイナーの役割ではないかと思ひ仕事に取り組んでいるところであります。



安 藤 清

昨今の建築事情を反映して仕事の量も以前に較べると減ってはいるものの、店舗（特に飲食店）、住宅等のインテリアにふり廻されている今日このごろです。先日も新しい年を迎えるあるお宅に訪問し座敷に通され、そこにはお正月のみに虫干しを

兼ねて出すといわれた、狩野元信作の龍と虎の書かれている墨絵の屏風が立ててあり、床にはみごとな七宝（現在の様な明かるい色彩の七宝と違いたいへん深みのある色あいのもの）の香炉があり、脇床には螺鈿模様入りの黒漆塗りの茶道具入れ等、本物の道具立てのある日本間に座して、あらためて伝統の深みに酔いしれました。

ずいぶん前のシャーロット・ペリアン女史の“伝統と創造”の名文を思いおこすまでもなく、日本をあらためて思ひおこさせられました。

日進月歩の建築新材料にとりかこまれた我々の仕事のうちにも、何か日本人としての心情に話しかける、物を作りたいと心新たに新年を迎えました。



鍵善の戸棚

黒野 敬三

新しいデザインや技術を追及する仕事をしていて時々昔ながらの型にはまったものを見ると好いなと思うことがある。そして、あぶなげがない、永く使ってあきがこない、したがって愛着がうまれる。木製家具とはそんなものではないだろうか、木目の美しいムク材で作った素朴な家具はとてもいい。自分でもそういう家具を使いたいし、人にもすすめたい。しかし今時これは大変ぜい沢な事になって来た。

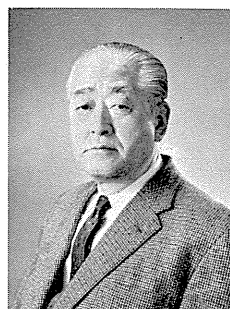
さて京都へ行くとよく「くず切り」で有名な鍵善へ立ち寄ることになる、いつも若い女性で大変混んでいる店である。その店は河原町通りを東へ四条大橋を渡りやがて八坂神社も近い頃左側にある小さな店であるが、店に入って正面に樺材に鉄の金具のついた、どっしりとした大きな戸棚があるのに気がつき、尚よく見ると風格のある時代物である。次に二階へ上る。上は客席になっていて若い女性客が一杯だ。イス、テーブルはありきたりのものであるがここにも正面に堂々たる戸棚が置いてある。そして周囲の室内を圧している本物の良さというところか。京都へ行くとよく立寄って戸棚を見に行くことにしているが、いい年をしたおっさんが独り女の中で「くず切り」をたべるのはどうにも型にはまらないのでアイスクリームを注文することになっている。



後藤 勝男

一昨年の暮れにひいた風邪のあと咳が続いたので医者にみせたら気管支の末端に故障があったので手術でも治るが日時がかかるので手術をするか放射線の治療の方が速い。以前はこの種の治療はオペに依ったものだが近代医学では後者の方が手術痕も残らないし苦痛も少ないという。ではその方で頼むことにしたら家族の同意書を出せという。

そこで去年の1月から4月上旬まで病院に日参してコバルトの照射治療を受けたら果して病巣は完全に消滅したことがレントゲン写真で明瞭になった。しかし問題はそれから、まず白血球が減少して疲れ易いし放射線下にさらされた内臓に異状が起り食欲がなく、体重も20キロ近くも減り晩酌もうまくない。最近では肋膜炎が癒着しかけていて乾性の肋膜炎の様な症状が続いている。今では二週間おきに病院に行っている。医者は徐々に快方に向っているというが既に一年以上もかかってしまった。しかしどこへ文句のつけようもなく、家族の同意書の必要なわけもよくわかった。そんなわけでこの一年公私共失礼のし勝ちで誠に申しわけなく思っておる現状です。



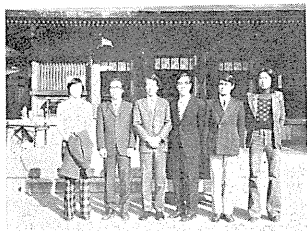
中部会員の声

林 寅正

私いいま、何かやろうとしているがそれが模糊として定かにならない。日常やっていることは大学で工業製品、物づくりの教師として、学生に物をつくることはどんな事なのかをたたき込んでいるつもりである。更に中部デザイン研究所として現実に建築設計、インテリアデザインそして工業製品のデザインを通して人間環境の総合を及ぼすながら願い進めている。しかし今、心の中は之丈ではないものを模索している様である。それはデザイン事務所で行う仕事も学生と共に明日を語り合う事にも、今一つ靴の上から足を搔くおもいがしてならないのである。

自分の手をよごして直接物の形をつくり上げてゆかないからだろうか。工場を通して製品をつくる物づくり、大工、図面を通して物をつくる建築、学生の思考の中にどれだけの影響を与え得たか不分明の教育の場……自分の手に確かな手応えを感じない事ばかりだろうか？ 轆轤に土をのせ両手で引き上げる確かさとあまりにも違う事を行っているのだろうか？

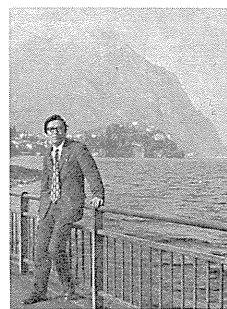
今年は此のモヤモヤに何とか影を与えてやりたい。堅い手ごたえのあるものにしてゆきたい。



宇賀 敏夫

最近の新聞紙上はインフレ、倒産、公害……全く暗い記事ばかり載っている。不景気の物価高、スタグレーションと言う経済現象だそうだが、各企業の売上は前年比を下廻って青息吐息である。物質文明の崩壊が来たかのような錯覚さえ憶えるものである。

一昨年のデザインイヤーのメインテーマ「人の心と物の世界」を改めて考えさせられる。疲弊した人間の心をやすらかにそして安定した精神生活を過すことにもっと真剣に我々デザイナーは考えねばなるまい。一昨年の秋イタリアでの3ヶ月間の生活が最近特に思い出されてくる。当時インフレの真只中にあるイタリア国内ではあちこちでストライキがおこなわれていたが、精神生活は我々日本人よりはるかに安定していたと思う。ミラノのスカラ座に入るのに3時間も行列している風景、市デン、市バスの後部にデンと坐って切っぶを売っている車掌さん、屋の休憩時間が3時間もあることは有名ですが、ノンビリと絵を描き鑑賞したり、読書したり、野球をしたり、将棋をしたり……“自分の好きなことがもっと出来るといいがなあ……”等と子供みたいな事をつれづれ考えている今日此頃である。



横 田 真 利

第三回商業施設士研修会に出席させて頂きました。先行の諸先輩の言を待つまでもなく毎日の生活を時間きざみでせきたてられる大変苦しい貴重な体験をさせて頂きました。集団生活の経験は正に軍隊以来の事

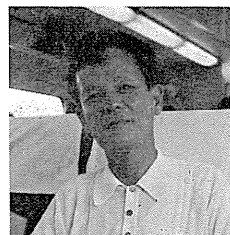


で、毎日の気儘な日暮らしから考えると可成り強制された生活なので大変なわけですが意外と体調もよく、反って平常の横着な生活態度を反省させられる始末です。中でも各地から参集された協会員の方達とも接触が出来、初対面にもかかわらず特殊な連帯意識の働いているせいか、どなたとも百年の知己の如く、肩書きも先入感もない裸の時間を過させて頂いた事を喜んでおります。特に協会員が一堂に会しての一夕のささやかな宴も「語り」を肴とした質実ですが充実した一刻で、年令のへだたりも忘れ素朴に同じ路を歩む友として語り合ったものです。道嶮しくとも山高くとも行こう我が友よ、といった感じで素直な学生時代再現の一駒でした。清冽な高原の数日間、霊峰富士の雄姿を朝夕仰いすごした生活、所謂世間からは隔絶した生活は或る意味では精神の為の人間ドックの働きもあった様に思われます。ともあれ少々大げさにいえば私の一生の中での一つの節になったという感じです。内外共に大変な様相の時代に突入してしまった感じですが、この機会にもう一度高い所から自分の進み方を考えてみたいと思っている次第です。

本当の豊かさに向って

本 多 正 之

昭和50年を迎えて、すぎた20年間みごとに経済は成長してきました。しかしここ10年ごろから、あちらこちらでささやかれ始めました、本当の豊かさとは？，“収入は増えたが豊かさの実感がない”，あくことを知らない日本人の性急さ“せまい日本そんなに急いでどこへ行く”ともいわれました。また成長のひづみといえる公害・資源・環境問題も論じられてきました。しかしとどまるところを知らない成長にもついに歯止めが掛けられてしまいました。石油ショック、インフレの悪化です。いままでの使い捨て、猫の目のような消費財のモデルチェンジ、豊富な商品に消費者も押しつけられた豊かさに眩惑されていたかのようです。これら無制限なモノの世界への反省をこめて、デザイン界は人の心とモノのかかわり合いについて問われている今日このごろです。



ちなみにわたしたちデザインに携わるものは、適格な情報を選択と知識、全人格的な経験、体験と努力によって、これら時流に押されてしまわない強い心の陶冶が必要であります。

“本当の豊かさは”いままでの高成長下でなくとも、むしろこれから予想されるであろう安定成長の中でこそ、着実に育まれるという期待をもっています。

中 部 会 員 の 声

堀 内 敬 二

私たちの学校のインテリア科は、創立から55年間、木材工芸科と称していたためか女生徒は2名の卒業生のみで関係産業界の発展に尽してきました。それが改名の年に、

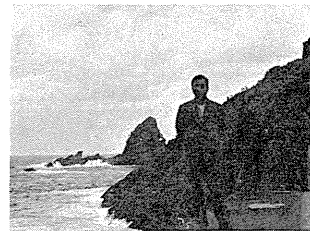


10名、昨年は17名の女生徒を迎え、本年は過半数の20名をこすものと思われます。進学、自家営業を除くと、男子の就職希望者は10名位になり、業界に大変ご迷惑をかけることとなります。しかも、中学卒女生徒の多くが選ぶ商業科・家庭科に匹敵する——生活環境・人生を楽しむ住い創りや、しつらえの才覚を養うためには——と教師の会合には何時も話題にあげると共に頭のいたい問題です。そして、担任になってといわれてもその才能もなく困ることの多い昨今です。

この様な片手間教育から解放されたい気持と、専門の女教師も迎え、女子中心のインテリアコーディネーター・デコレーター養成コースと男子中心の技術コースも確立して、各々40名募集し、家具業界と住宅システムの技術研究や開発のための工業人を育てて業界発展と学校の実験実習室を活気づけ、プレナーや多軸ならい旋盤などの切削音も安心して聞け、また女生徒のインテリア才能と職業目標を立ててやる事が現代の急務ではないかと考えています。

瀬 十 記 夫

昨秋ごろ、美濃焼の明治から現代までのデザインの変遷について、なにか書くようにと窯業専門誌から依頼があった。そこで明治のはじめからの製品や生産の



あり方と、そのご工業化していく過程やデザインなどの進展を年表にしたり、製品の所在を尋ねては実態調査をしたり、記録や写真撮影などあれこれと、とうとう半年ばかり費した。その結果はとうてい近代デザインを概観するまでにはいたらなかったが、自分なりの考えを見出したことがせめてものなぐさめであった。また幸いなことに珍しい製品を知り得たこと、個人や企業のすぐれた業績を発見したこと、さらに近代陶磁器の意義とそのあり方について学び得たことであった。それと一つ残念に思ったことは、それらの中で数多くの貴重な資料が散逸してしまっていることである。こういったことを防ぐことについては、多く人々の協力があれば容易になしうることではないかと考えている次第である。

わが一人娘に期待する

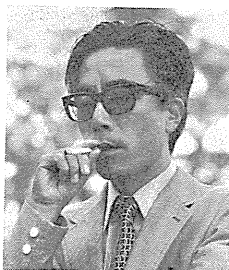
藤原 庸弘

今、私の娘は高校進学に迷う一匹の子ひつじである。将来ピアノを習うことに連なるところへ行くのか、又普通の大学へ進むための高校への進学かである。この前JIDから求められたアンケートに対し答えにならぬコメントを書いたのもそれも含めて書いておくことにする。以下は親馬鹿まるだしの観察眼だと笑われるだろうが……。

お前は小さい時アッと驚く程の神童？ぶりであった。少なくとも優童ぶりであった。ちょっとした仕事に毎日目をみはったものである。まさしく日々がクリエイティブなデザイン生活であった。プレイブロックを使って「椅子」……すわるためのものや「家」……住むための容器を面白く作ったし、粘土を使って電気釜やフタがオートマツトに開閉するボットも作った。イチゴをモチーフにした図案も良かった。「インテリアデザインからグラフィックデザインまで多才であった。それが何時の頃からか……それは幼稚園に入りお決まりの「お絵かき」をやりだし

たころからまたたく間にお前の面白さはなくなって行った。

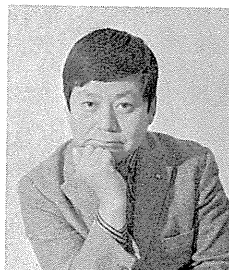
日本の教育のあり方は次のパターンに入と思う。親がやれなかったことを子供に期待する。その良し悪しはともかく、それに私自身納得せざるを得ない面がある。だからお前にいう。ピアノが習えて、しかもガツガツ勉強したくないなら、又普通科高校の制服にコンプレックスを感じないのなら工業高校へ行き給え。建築科がよい。少なくとも模擬テストの毎日より製図の毎日の方が面白いだろう。三年間「創造」？の中に身をおきなさい。そして行きたかったらその上で大学へ行ったらよい。(その頃には入試方法が改良されているだろう。)好きなことをやれる大学へ行けばよい。行けばよいというより行くべきだ。何故か、それは大学を出て大学院位は出ていないと通用しない世の中だから……。



栃谷 賢一

福井に帰って来て早や10年の歳月が流れてしまいました。

在東京時代には、インテリアデザイナーとしての“しごとひとすじ”現在は、営業的なことから会社の運営全般等々と、一昔前の、“形、空間”の追求の時間が大変少なくなつてしまいました。今年こそはと思いながら……又今年も頑張るつもりです。



中 部 会 員 の 声

春過ぎて夏来にけらし

玉置 勇一

白妙の衣を干す様な山の姿に夏を意識した、むかしの人がうらやましく、この様に春をひたすら待ち焦れ、春来ればおそろく夏を待ち焦れるであろう昨今の世相にはつくづく愛想が尽きまして、未だ桃の節句が過ぎたばかりだというのに、只待つ身のつらさを味って居ります。

待ちの政治で成功なさった方もおられますが、吾々は只待っていては干し上がりますので、この際もう待ち焦れるのはやめてしまつて、春には蝶よ花よと、夏には白妙の衣をちらりほらりとながめてくらすことに致そうではないかと、物心両面で大変な体質改善に格闘中であります。

しかしこれを書きつめて参りますと「無」になります。「無」というものは「老子」ではないけれど、成る程淡く、たくましく自然的なものであるわいと感心して居ります。

あり来たりの処方箋ではききめがありませんので、いきなり無にかえて

は、空気の様に入様にもみて頂くことも出来ませんから、せめて有限の界まで、精粹らしい姿になるまで精進したいものと衣を脱ぎすてて居ります。

デザインの分野におきましても、何者にも煩らわされない純粋な仕事が出来たらと希い乍ら、許されぬままに俗事の惰性の集積をくりかえして居ります。

しかしこれは、矢張り表面的な見方でありまして、表現されている形は心ならずもがなの姿でありまして、表現しようとする心奥に純粋さを保ち、育ていとはしんで居ること自体に、「生きているかたち」があると思つて居ります。

そこには愛情と願望が常に同居して居り、地球のどこにもっていても通用する明るい笑顔の様なもので、複雑になり過ぎた世相の中から、余分なものをどんどんとり去ってゆきますと、今あるひとときが成る程一番大切なものなのだとすることにぶち当たりました。そして今あるこのひとときは、自分によって価値が評価されて参りますから余り目うつりしてはいけな

だ、一つのものをじっくりおかけて居ればよいのだとも自分に言いかけさせて居ります。

今は誰し

も、余りにも人様の事、又は他国の事を気にし過ぎるから、自分で世間の荒浪にのまれてしまう。

調子よく波にのろうと思うよりも、波の行方を見定めて、波の間に間に身をゆだね、ゆだね具合を楽しんだ方がよろしい様でございます。

私共が本当に表現しようと希っているものは、画こう画こうと思つて、年中真白なキャンパスを三脚にしこんだまま、画かないでいる心の中でのみ今後生きつづけてゆくのかも知れません。



富 川 齊

最近発表された環境庁の「緑の国勢調査」によりますと、日本全土の八割は開発され、山野が自然のまま手つかずで残っているのは二割にすぎないというショッキングな



報告がされました。このような無秩序な土地開発は自然破壊や公害を発生させ人間生活の場はもちろんのこと動物や鳥類、魚類の場までも失われ、かつて日本人は山を崇拜し神霊のやどるところとしてあがめ、他のどの民族よりも自然との調和を心掛けたという歴史的事実が信じられないくらい荒廃しつつあります。

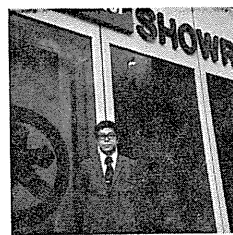
タビオラやビヒラヤマキ団地（ヘルシンキ近郊）では団地の中に林があるというのではなく、森林の中に団地が点在しており木立が多くて友人の家をさがすのに苦労した経験を何度かしました。このように欧米諸国では自然を大切に、環境整備、保全に力を入れているかがうかがわれます。

さて環境整備にともなって当然考えられるものに環境用具があげられます。従来インテリアとしての環境用具の開発はいろいろ進んでいるようですが、これからは緑化、緑地と関係したアーテリアとしての環境用具のデザイン開発が必要ではないでしょうか。

緑の自然の中に点在するアウテリア・ウエアは人間の気持を豊かにし、より充実した憩いと安らぎを誘い出すことでしょう。現在手がけている仕事は、よりよい環境づくりのバイプレーヤーとして、常滑地区の特長である大型製陶技術とナイーブな土味を生かし、“緑とやきもの”にデザイン・ポイントをおきアウテリア・ウエアのデザイン開発を進めています。文明が進めば進むほど人間はプリミティブな生活とナチュラルなものへの憧憬を痛感することでしょう。

内 田 次 彦

「ボロは着ても心は錦」という言い慣わしは、もうとくに我々日本人の生活感覚からずれているといわれるかもしれません。確かにこの言葉には、階級



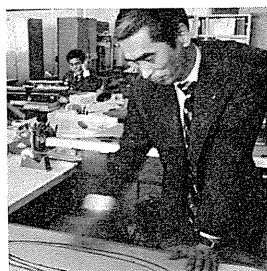
社会の持たざる者の、持てる者に対する居直りや、痩せ我慢が感じられます。しかし、日本の歴史の中で永い間「豊かさ」という言葉はどちらかといえば「心」の問題として考えられて来たのではないのでしょうか。この世の総ての人間が平等であり、等しい権利を与えられるべきであるという事が、この時代の文明の理念であるとすれば、我々はこの理念達成への過程を、未だほんの数歩、歩き始めたばかりであるといえるでしょう。今、富の偏在の是正とか、富の公平な分配という事が盛んにいわれています。しかし、現今の様に価値観の基本に「物質」を据えた考え方でこの問題を解決する事はできないのではないのでしょうか。

富の偏在は、とりも直さず価値観の偏在であるといえるでしょう。したがって富の偏在を正すには、何よりも先づ価値観の多様化を押し進める事が必要であると思います。現在我々の時代が直面している多くの問題の中で、個人個人の価値観がもっと幅を拡げて、多様性を持ちさえすれば簡単に解決してしまうものが多々ある様な気がします。一人一人が独自の価値観を持ち、自分の「心」を大切にす。そして、その「心の豊かさ」を希求する事は、我々の職能に与えられた社会的使命でもあるのではないか、などとそんな事を考えている処です。

中 部 会 員 の 声

岡 嶋 敏 弘

インテリアデザインを問われるとき、明解なこたえを提示出来ないで、この業務に携わっている自分に苛立たしさと恥ずかしさを感じて毎日を送っている。



人間の居住環境をデザインするのだと言ってもしまえば簡単であるが、パブリック、リビング、ワーク、コマーシャルスペース等、広範囲なものであって、それを構成する諸要素は多岐にわたり、その何れをも軽ろんずることが出来ず各要素を十分に熟知して居なければ十分なデザイン行為は行なえないのである。然し現実はどうであろうか。環境をデザインするには、人間の心理生理的なものから、それを満たしてやるために必要な機

能、造形、色彩に関する知識を持たなければならない。機能を満足させてやるためには、建築、建築設備即ち空気調和、電気、衛生、音響、照明という各専門分野の知識も不可欠なものとなって来る。

又それにも増してデザインする空間が本当に必要として求めているものは何かを把握していなければならない。となると私共インテリアデザインの中に生きる者は常に研鑽に努めなければならないと思う。

世に自称デザイナー氏が多く、自分の趣味、或は芸術性のみを前に押し出して、クライアントを迷わせたり、その信頼を損ねたりしているのを身近に見るとき、自からを律しなければと思っている。

関東事業支部

研修委員会では、次回研究発表会の内容およびプログラムについて討議を行った結果、その前段階としてJ I D会員によるJ I D会員のみを対象とした“研修会”開催の必要性を感じたということで、昭和50年度開始早々下記のとおり3回にわたって研修会を開催することが決定しています。

会場は、いづれも建築家会館3階会議室で、業務委員会と関東支部研究委員会がこれに協力します。

記

第1回 5月16日(金) 6.00 PM

テーマ

＜協会と協会員との関係はこれでよいのか＞

第2回 6月6日(金) 6.00 PM

テーマ

＜日本インテリアデザイナー協会はこれでよいのか＞

第3回 6月20日(金) 6.00 PM

テーマ

＜インテリアデザイナーはこれでよいのか＞

それぞれ3名のパネリストをお願いすることとし、目下交渉中です。 工 藤 広 忠

中部事業支部

倉敷見学— 3月29・30日—

再び古き日本の伝統美を求めての見学会である。本瓦葺、なまこ壁、倉敷窓・格子などの古きものと超近代化設備を備えた倉敷市民会館、民芸のふるさと倉敷民芸館と収蔵美術品を世界に誇る大原美術館などなど…古きものと新しきもの、地方的なもの、国際的なものがうまく交錯し、日常生活の中にすっかり溶け込んでいる様は、ここを訪れる者へ常に清々しささえ感じさせる。伝統的な美観保存にひたすら力を入れている倉敷ならではの。今回は、これらの保存と地域開発に多年貢献しておられる浦辺建築

事務所の辻野純徳氏並びに倉敷アイビースクウェアの児玉潤吉氏(正会員)にお骨折りいただき大原邸、旅館くらしき、楠戸呉服店そして倉敷市民会館を見学。一行は旧倉敷紡績の工場がものの見事にホテルに生れ変わった倉敷アイビー・スクウェアに宿泊、遠い歴史の息づきを感じつつ旅の疲れを癒やした。今回は、中部5名に関東3名計8名の少数による見学旅行であったが、関係各位のお力添えにより有意義なものとなった。次回は、会員の方々の積極的参加が望まれる。 池 田 高 明

関西事業支部

“進みつつある関西の本年度特別事業計画”

去る1月、懇親会を兼ねて行われた関西事業支部、本年度事業計画打合せ会席上で採上げられた“作品展開催”について、其後事業委員を中心に種々方策が練られて来たが、漸くその素案が出来上り、いよいよ具体的実施の線に沿って計画が動き始めた。

・名称—＜インテリアイメージ'75＞

期待される住いの装置展 《仮称》

・主催—J I D関西事業支部

・会期—昭和50年9月15日～20日

・会場—大阪国際ビル1F 日本総業ショールーム

《約150坪》

以上が現時点での催し構成案であるが、内容としては、イタリアのベルリーナ或はカシーナなどのデザイナーにも呼びかけ、ヨーロッパ各国にも窓口を開らく国際的な連系を目指したものが構想されつつある。

若しこれ等が実現すれば従来にない角度からの支部事業運営も考えられ、当、催しとしてもパネル形式の出品物として全国的持廻りの展示も可能であろうし、種々な意味で将来の展望をうながす計画であると思われる点、是非ともその実現が望まれるものである。 本 田 安 治

九州事業支部

九州新幹線——ひかりとかげ

「ひかりは西から東から」と騒がれた新幹線の開通、そしてこの夏にひかえた沖縄国際海洋博の開幕と続くと、このところ九州の空は明るい光に満ちているといった感じになりそうです。しかし光に陰がつきまとうのは天の理であります。東京博多間6時間何十分という、たったそれだけのために傷だらけにされてしまった自然、新幹線にかぎらず、鉄とガラスとセメントで固められた街、工業的に生産された住宅等々はその複合された醜さ潤いのなさにおいてまぎれもなく一種の汚染環境を形づくっています。しかもこのような状況は人々の環境に対する感覚を次第に鈍化させ麻痺させる作用をもつという意味で第2次公害源であるわけです。(もっともいまのところはこのような不自然な

状況に対して強い拒否反応を示す感覚的健康人?が圧倒的に多いことを信じているのですが)。以上のような環境公害はやはり経済の繁栄という人工の光がもたらしたものの代償としての陰の部分に相当するものでしょう。このような社会的なひずみや欠落は、誰がどのような形で補填するのでしょうか。

デザイナーの役割が美しい陰影をともなった豊かな実像を具現することにあるとすれば、デザイン行為の起点もまた豊かさを求める人の心の所在と同じく、効率最優先の経済原則とは対極的なところに位置すべきものであると考えます。以上近況報告にことよせややヒステリックに寸感を述べました。 中 川 千 年

冬のヨーロッパ

八代美智子

昨年11月1日より3ヶ月間、産業デザイン振興会嘱託デザイン研究員として北欧を中心に、ヨーロッパの8ヶ国を歩いた。数十年来の暖冬とか、フィンランドで過したクリスマスも、1月のチューリッヒもミュンヘンも、想像していた寒さではなかった。私の、ヨーロッパでの最初の地は、ヘルシンキ中央駅より車で約2時間、フィンランドで第4番目といわれる、人口約十万人の、湖の畔の美しい街LAHTI市であり、2ヶ月間下宿をし、ここを基点として北欧各地を歩いた。市内のアパートの1室で、家主のMRS, VISKARIとともに過した日々は、私にとって忘れ得ぬ、すばらしく充実した毎日であった。暗く冷い北欧の冬、青空は少く、スーパーマーケットへ出かけても、青々した野菜にはお目

にかかれない。乏しい資源と戦争の歴史、目立った産業も持たないこの国、しかし、何と人々は賢明に生活していることであろう。

1. フィンランド

○織物の教室にて

時間をみつけては下宿より歩いて5～6分の市の経営する織物の教室へ通った。まだ暗い雪の道を歩いて朝7時に教室へ入り、夜は9時まで。この時間内に、ここの住人は誰でも利用出来る。白樺で作られた織機が20台。タビストリー・マット・ブランケット等自由に製作出来る。室内は温かく清潔でいつもにぎやかなおしゃべりと歌声に満ち春のようであった。私も全てを忘れて製作に熱中した。

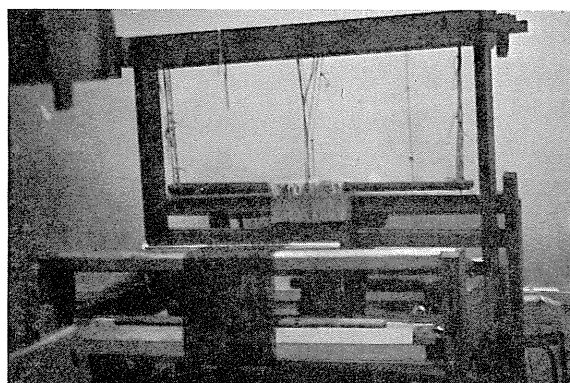
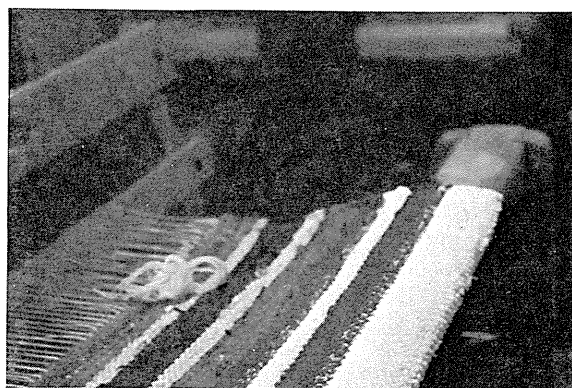
○クリスマス

数日前より、ヘルシンキでもコペンハーゲンでもストックホルムでも、街にはクリスマスムードがあふれ、LAHTIのマーケット広場には大きなクリスマスツリーが立ち、豆電球がかがやいた。12月24日、私の手もとへも思いがけず近所の人から手づくりのクリスマスプレゼントが届いた。私はMRS, VISKARIとともにLAHTI市郊外の大きな農家でクリスマスを過すことになった。美しく整えられた室内、素朴で人なつっこい家族の人達。広々とした畑を湖からの風が渡り、家のまわりの白樺の林が鳴っていた。牛舎には20数頭の牛がおり、古いサウナ小屋を持っていた。その夜、この家の主婦の手づくりの、クリスマス用のハムを食べ、アルコール抜きの手づ



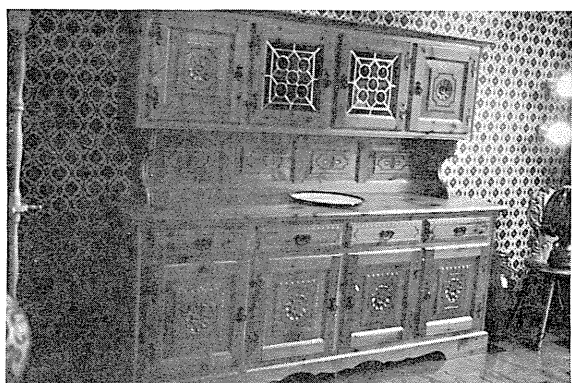
1974年12月
フィンランド
LAHTI市にて

フィンランド
LAHTI市
TEXTILE
MILLにて
(織物の実習)



フィンランド
LAHTI市
TEXTILE MILL
にて (織機)

ミュンヘンの
家具店ショールーム



くりのビールで乾杯した。サンタクロースがやって来たのはその後である。雪の少ない、おだやかなクリスマスであった。

2. スイス

○チューリッヒにて

1月5日チューリッヒ着。北欧での2ヶ月の後に、1月のスイスは明るく少々暖かかった。6日夜、鉄道員H A D E R L I 氏夫妻をチューリッヒ市内のアパートに訪問。約束の時刻きっちりにホテルのロビーに現れた夫人は、市電で自宅へ案内してくれた。古いけど手入れのゆき届いた落ち着いた感じの室内。エスペ란チストであり、ドイツ語の他に、アタリア語と英語を話すこの家族は、チーズフォンジュのもてなしとともに、ランチョンマットに描かれたスイスの地図を示しながら山

の話、スイスの言葉、食事の話等一生懸命説明してくれた。

チューリッヒ湖には、かもめや白鳥や、名も知らぬ鳥が群れ、街並は美しく清潔であり、ホテルに働く人々は親切であった。チューリッヒは、素晴らしい観光の街である。

○クリングナウからコブレンツへ

●デ・セデ社

チューリッヒより車で約1時間の静かな街クリングナウにある工場を訪問した。ていねいに作られた皮張りの椅子で知られるこのメーカーは以前から私の行ってみたい工場の1つであった。全生産工程を見学したが、皮のストック量の多さに圧倒されてしまった。後日、パリの、第8回国際家具ショーにて、ブラウンカラーに統一さ

れた同社の椅子の群を、なつかしい思いでながめた。

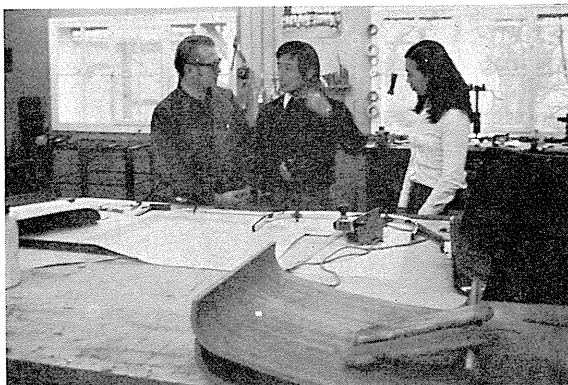
●ジロフレックス社

事務用家具のメーカーである。デ・セデ社の訪問の際に乗ったタクシーの女性運転手によって偶然に出会った、同社のデザイナー・藤村盛造氏の好意により、藤村氏のデザインスタジオのワークショップを見学する機会を得た。製作中の模型があったり、椅子の強度試験が行われていたりした。とても良い仕事場であった。そして又、偶然にも藤村氏は金沢美大の同窓生でもあった。この機会を作ってくれた空手の趣味を持つ、ミセス、ジョシィ・ウィドマーは栗色の髪の可愛い女性であった。



◀ ミュンヘン
PROF. GERHAR
HÜSH (声楽家)
夫妻の自宅にて

▶ ドイツ
フランクフル
ト市内にて



◀ スイス
GIROFLEX 社の
デザインスタジオ
のワークショップ
にて同社デザイ
ナー藤原氏と共に

▶ GIROFLEX社の
ショールーム
(事務用家具メー
カー)



アンケートの趣旨

「JID」69号をこの度再び中部事業部が編集を担当することとなりました。そこで、今回は中部の賛助会員にご登場願って、会員の方々とよりよいコミュニケーションをもつための一助ともなればと掲載したものです。各社にそれぞれ次の9項目の質問に

ついて回答をいただきました。

1. 代表者はどなたですか。
2. 設立されたのはいつですか。
3. 現在、従業員は何名ですか。
4. 本社及び工場はどこにありますか。
5. 営業内容について。
6. 会社のモットー或いは目標について簡単にお答え下さい。
7. 現在の社会情勢に対して、どう対処しておられますか。
8. 今後の抱負について。
9. 最後に貴社のピーアールを一言。

愛知株式会社



1. 愛知株式会社
2. 島本準一（代表取締役社長）
3. 昭和14年12月23日
4. 約250名
5. 本社 〒461 名古屋市東区赤萩町3の8
 <052> 935-6433
 工場 愛知県春日井市如意申町650
 <0568> 31-6111（代）

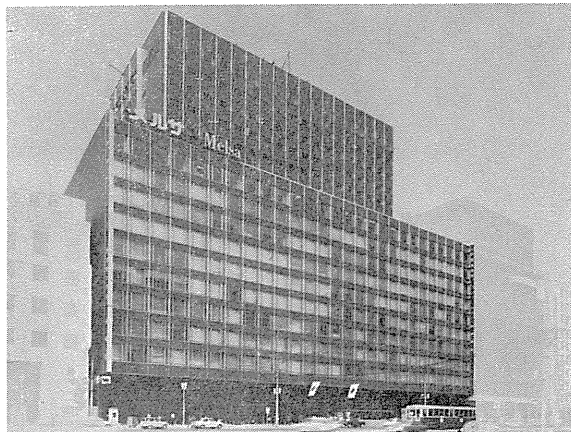
6. 営業内容

パイプ製折畳イス、食堂セット、ロビーセット、リビングセット、会議セット、学校机イス、ホール用劇場用連結イス、プラスチック家具、回転イス、議場用イス、等生産。

販売経路としては名古屋に本社を置き、営業本部の統括の基に東京、大阪、名古屋各地に支店を置き、京都、神戸、札幌、広島、静岡に営業所、千葉、金沢、岡山に出張所を設けて、当社の直接の販売網として直接、又は間接販売に力を入れている。

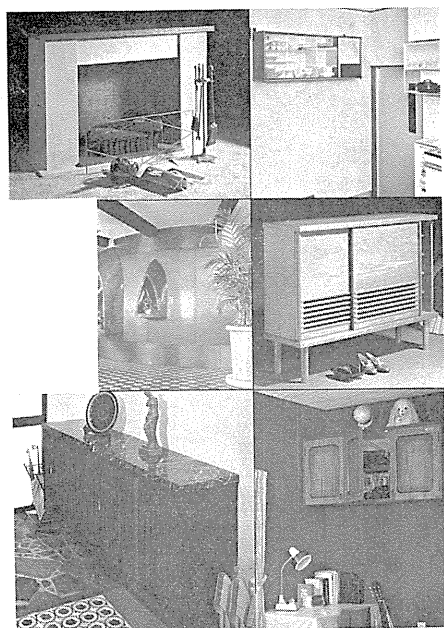
その上当社商品の販売を主体にしているフランチャイズ店として、東京、神奈川（横浜）、北関東（埼玉）、東北（仙台）福岡、四国、南九州（宮崎）に置き当社商品の拡販に努めている。また主要ヶ所には特約店を置き販売強化を計っている。

7. 業務用家具メーカーとして特色ある商品の開発に力を注いでいる。即ち付加価値の高い商品と量産的に多売して行く商品との2つの流れである。諸資材の不足により原材料の高騰はムダに材料を使用することは許されず、それだけデザイン技術に力を入れることになります。
8. 最近の経済界の不況は相当深刻なものとあります。7項目に述べましたように原材料は高く、製品のコストは安くせねば売れず、（スタグフレーション）全く混乱状態です。従って当社としましては差別化された商品群、即ち技術とデザインに優れている商品の生産販売に力を入れて居ります。そして優秀なる人材、少数精鋭主義をつらぬき、この難局をきり開いて行きたいと考えています。
9. 省資源、省力、省エネルギーを目標とした知識集約的商品の開発に力を注いで行く。出来る限り商品の差別化を行い付加価値の向上に努力して行きたい。
10. 「個性と機能のアイチのイス」
 パブリックスペースにはアイチのイスをどうぞ



中央設備エンジニアリング株式会社

1. 会社名
中央設備エンジニアリング株式会社
2. 代表者名
川端好雄（伊藤忠商事名古屋支社長兼務）
3. 設立
昭和43年10月1日。
4. 従業員数
130名（本社65名，東京支店36名，大阪支店25名，金沢営業所4名）
5. 本社 名古屋市中村区
笹島町1の223
名鉄バスターミナル
ビル10階 工場なし
6. 建築設備工事及び
インテリア工事の総合
的計画，設計，施工
管理，及び監督業務
です。
7. （インテリア部の目標と置きかえ
させていただきます）クライアントとの
間に人間的な理解と信頼関係を深
め，種々の制約を乗り越え，生かし，
空間に言葉を，表情を，人間らしさ
を与え，対話を起させる空間をデザ
インする能力を備える事です。
8. インテリア部に於ては49年下期に
若干の落ち込みがあったが現在50年
上下期のプロジェクトが十数件出て
おり，その計画，設計に追われてお
ります。インテリア部としては常に
技術力の向上と時代を先取りする技
術を国内・外を問わず研究確保する
努力をしております。
9. ジョセフ・マグニン・ジャパン，
ホリデザイン・ホテルのチェーン展開
に協力，参加出来る機会に海外技術
の吸収をはかりたい。又昨年来より
東京，大阪の受注が増加しているの
で早急に人員の整備をし，これを基
盤に全国的な活動をしたいと思いま
す。
10. 大型プロジェクトに取り組み，建
築設備，インテリア工事のシンクタン
クとして計画の段階から参画し，
企画，設計，施工管理に至るまで一
貫したシステムエンジニアリングを
展開，当業界におけるパイオニア精
神に満ちた存在として注目を集めて
おります。

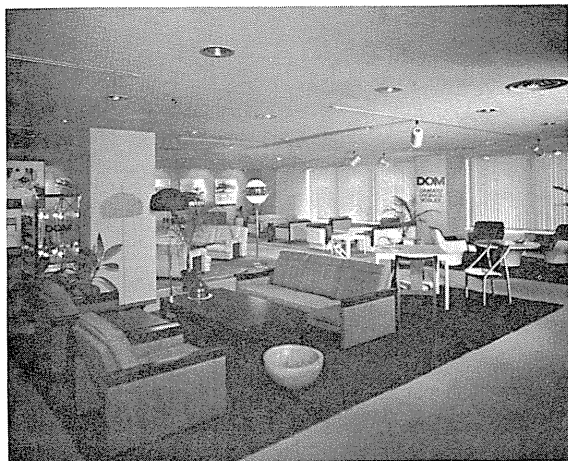


イビマントルピース
イビ準不燃
イビアートカバー、イビ組立下駄箱
イビカウンター、イビ高級吊戸棚



揖斐川電気工業株式会社

1. 会社名 揖斐川電気工業株式会社
2. 代表者
代表取締役社長 矢橋浩吉
3. 設立 大正元年11月
4. 従業員数 1,600名
5. 本社 岐阜県大垣市神田町2の1
大垣工場 青柳工場 河間工場
衣浦工場 東横山発電所 広瀬発
電所 川上発電所
6. 営業内容（主要製品）
イビキャシー（プリント合板）
イビセブンティー（プリント合板）
イビボード，イビエース（メラミ
ン化粧板，メラミン化粧合板）
模様印刷紙 カーバイド 熔成燐
肥 石灰窒素 アセチレンブラッ
ク 電鍍煉瓦 カーボン 電池棒
フェロシリコン イビフローラ
イビ住宅機器 プリンター配線板
7. 会社のモット
社是 誠実 和 積極性
昭和49年度経営目標スローガン
「省資源活かす我等のチェと汗」
8. 建材事業部として
(1) 低成長ベースに見合う販売体制
づくり
(2) 第三次三ヶ年計画
(3) イビ会（建材流通）組織の拡充
強化，イビ会理念の徹底
(4) 徹底した合理化，省力化に依る
競争力強化
(5) 各商品の洗い直し
9. 伝統技術をさらに展開し新製品開
発に全力をかける
10. “あす”を創る揖斐川電工



大 丸
DAIMARU

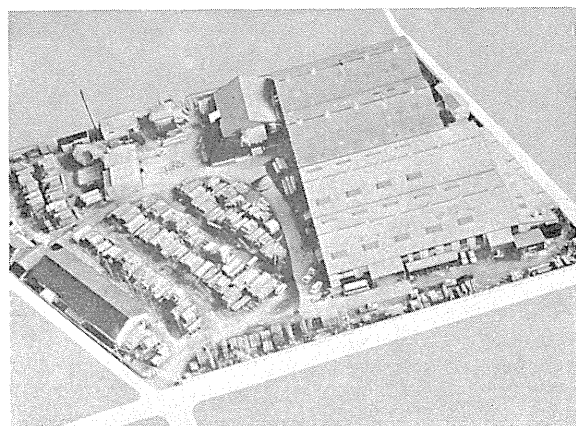
- ①株式会社 大丸
- ②井狩弥治郎
- ③享保2年（1717年）
- ④全社 9,300人 装工部 306人
- ⑤本部 大阪市南区心斎橋筋1-118
KK大丸社 大阪市寝屋川市
豊里町34-10

- ⑥装工部に限って申し上げれば
建築設計から家具、室内装飾、造作をはじめ船舶、航空機の内装にいたるまで、広い範囲を手がけております。
- ⑦「先義而後利者栄」の理念のもとに「顧客第一主義」をモットーに常に良い品を廉価に提供し、消費者の経済生活の合理化と、我が国の生活文化の向上に貢献することを念願としています。
- ⑧この混迷の時期にこそ「先義後利」の理念を再確認し、“新しい暮らしの創造に確かなものを”のスローガ

ンを定め、冷静に情勢の本質を洞察し、正しい選択により、将来に悔いを残す事のないよう努力しております。

- ⑨わが国経済の構造、消費者の価値観の変化に即応するため発想を転換し、未来を先取りするという見地から“生活産業”の育成発展へ取り組んでおります。
- ⑩「さわやか環境」を願う大丸は、あらゆる角度からこの目標に取り組んでいます。

お客様の環境づくりには、クリエイティブエキスパート大丸装工部が総力をあげて御協力させて頂きます。



寿屋木工株式会社

1. 会社名 寿屋木工株式会社
2. 代表者 代表取締役社長
溝口鉦一
3. 創業 明治32年1月1日
会社設立 昭和24年5月23日
4. 会社従業員数 140名
(職員40名 工員 100名)
5. ①本社 名古屋市東区山田東町1
-35 〒461
電話(052)721-0211代表
②建築造作部及工場 同上
③家具部及キャビネット部及小牧
工場 愛知県小牧市宇市之久田
松山 〒485
電話(0568)76-2145代表

- ④ショールーム 名古屋
市北区東大曾根本通5
の742 〒462
電話(052)919-311
- ⑤別に全額出資の販売会社あり（オリジナル家具総発売元）
会社名 株式会社 寿
名古屋市北区東大曾根本通5の742
〒462 電話(052)911-7151代表
6. 営業内容
①家具事業部
②キャビネット事業部
③建築造作事業部
④建築業者登録 特(49)10659号
7. 会社の方針（モットー）
弊社は創業以来70余年、需要者の皆様の立場に立ってその利益を守り、以て社会に奉仕する事を営業の根本方針として居ります。之が為
1. 設計には最新の知識と緻密な企画を投入し
2. 材料は厳選された内外地材を検

査使用し

3. 優秀な技術者、熟練工で以て、自社工場設備で生産し需要者の皆様の御満足を得べく、品質向上、価格低減に日夜研究、努力致して居ります。

8.9.10

現在の社会、経済状態は、石油ショック以来、根本的な高度成長から低成長へ変革を迫られています。現在は、まだ家具インテリアに関しては、日本は欧米に比べ、歴史的にも浅く、生産者、販売者、消費者共研究不足であります。心機一転、必死になって勉強し、頑張らねばなりません。会員諸氏の御指導を切にお願い申し上げます。尚弊社は日本の中央にあり、工場も小牧インターチェンジの近くにあり、皆様の御来社をお待ち致します。

賛 助 会 員 紹 介

朝日木工（株）豊川工場
愛知県豊川市豊川町幾通り15
(05338) 6-4171

（株） コスガ
東京都中央区東日本橋2-15-4
(03) 862-6711

（株） 天童木工東京支店
東京都港区芝浜松町1-19-2
(03) 432-0401

飛驒産業（株）
岐阜県高山市名田町1-82
(0577) 2-1001

富士ファニチャー関西販売（株）
大阪市南区塩町通り1-52 森ビル内
(06) 261-4691

ネコス工業（株）
横浜市戸塚区飯島町久保890-1
(045) 851-5761

古川工業（株）
大阪市大淀区中津浜通4-5
(06) 371-0849

（株） ホウトク
名古屋市中区錦2-15-22 協銀ビル
(052) 201-4101

フランスベッド（株）
東京都昭島市中神町1148
(0425) 43-3111

（株） オリエンタル中村百貨店
名古屋市中区栄3-5-1
(052) 251-2111

（株） 大丸装工部
大阪市南区鰻谷中ノ町38
(06) 252-0641

国際インテリア（株）
東京都豊島区南池袋1-18-21
(03) 983-9151

（株） モダン・ファニチャー・セールス
東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル
(03) 211-8351

日本総業（株）（エアボン）
東京都港区麻布飯倉片町10
(03) 582-3341

クラレインテリア（株）
東京都港区六本木5-2-1
(03) 403-9721(代)

（株） ホクサン
東京都江東区木場3-15-4
(03) 641-5111

（株） 木利屋
東京都港区新橋3-6-7
(03) 503-1920

三好木工（株）
東京都文京区湯島4-9-2
(03) 813-5481

愛知（株）
名古屋市東区赤荻町3-8
(052) 935-6433

（株） コトブキ
東京都千代田区有楽町1-14
(03) 591-1311

（株） セミカインテリア
東京都新宿区西大久保1-392
(03) 208-0131

住江織物（株）東京支店
東京都港区西新橋3-23-1
(03) 433-4171

トソー（株）
東京都中央区新川1-4-9
(03) 552-1211

長谷虎紡績（株）
大阪市東区横堀2-10
(06) 203-5921

藤井毛織（株）東京事務所
東京都中央区日本橋堀留町2-3
(03) 663-6631

内一商事（株）東京営業所
東京都荒川区東日暮里6-36-12
(03) 802-4471

（株） カワキチ
東京都新宿区西大久保2-211
新宿専門店会館 1F～6F
(03) 209-7001

（株） サンゲツ
名古屋市中区小舟町2丁目14
(052) 565-1133

アイカ工業（株）
愛知県西春日井郡新川町西堀江2288
(0560) 40-5311

東洋ゴム工業（株）
大阪市西区江戸堀上通2-5
(06) 441-3580・8801

富国（株）
東京都中央区日本橋小伝馬町2-2
(03) 662-1901

（株） 高島屋
大阪市南区難波新地6-14
(06) 631-1101

（株） 高島屋東京支店設計部
東京都中央区日本橋2-4-1 北別館
(03) 211-4111 内2157

（株） ニック（NIC）
福岡市中央区天神1-11-17 福岡ビル
(092) 721-8151

（株） ハヤミズ家具センター
東京都台東区下谷2-7-2
(03) 876-1111

揖斐川電気工業（株）建材事業部
岐阜県大垣市神田町2-1
(0584) 81-3111 内線368

（株） トップトーン
東京都葛飾区東四つ木3-44-15
(03) 692-9097(代)

（株） 佐野紙芸インテリア事業部
京都府亀岡市曾我部町犬飼馬の上1
(07712) 3-0661～4

東濃陶器（株）
岐阜県土岐市駄知町1435
(05725) 9-3131

（株） アイ・エム・エス
東京都港区南青山1-11-38
(03) 402-1855

（株） 日建設計
大阪市東区横堀2-38
(06) 203-2361

（株） カファドハウス
東京都港区西麻布2-13-12 早野ビル
(03) 407-2428

（株） 竹中工務店東京支店
東京都千代田区神田錦町1-9
(03) 294-2111

（株） ファースト東京支社
東京都港区赤坂4-1-32 赤坂ビル6F
(03) 585-2046

（株） 商園
東京都渋谷区東1-26-25 富士ビル8F
(03) 407-8171

（株） 小川商店
東京都渋谷区松涛2-18-2
(03) 460-5771～7

（株） 川島織物東京営業所
東京都千代田区永田町2-14-2
山王グラウンドビル5F
(03) 580-4511

（株） 東光堂書店
東京都中央区日本橋通1-7-6 中内ビル
(03) 272-1966

松下電工（株）
大阪府門真市大字門真1048
（06）908—1131
ヤマギワ電気（株）
東京都千代田区外神田4—1—1
（03）253—2111（大代）
共同通信工業（株）
東京都千代田区内神田2—16—13
（03）254—1261
（株）松坂屋
名古屋市中区栄三丁目16—1
（052）251—1111 内3781
（株）新宮商行東京支店
東京都中央区日本橋1—3—13
（03）273—7841
（株）フジエキスタイル
東京都渋谷区千駄ヶ谷4—7—12
（03）403—3371
（株）アルフレックスジャパン
東京都港区北青山3—5—6
（03）403—5351
中央設備エンジニアリング（株）
名古屋市中村区笹島町1丁目223
（052）582—8201
日本ビクター（株）デザイン部
横浜市神奈川区守屋町3—12
（045）441—1291
内外木材工業（株）東京支店
埼玉県入間郡大井町亀久保1150
（0492）61—3611
同社東京支店分室
東京都千代田区内神田1—14—8
長谷川第5ビル
（03）292—3841～5

（株）三平興業装飾部
東京都千代田区岩本町1丁目5—13
（03）862—6161
共同印刷（株）
東京都文京区小石川4—14—12
（03）813—1111（内線439）
（株）ハック
東京都港区西麻布3—2—6
六本木フジビル7階
（03）470—3257～8
鹿島建設（株）建築設計本部
東京都新宿区西新宿2—1—1
新宿三井ビル24F
（03）344—2111
山田照明（株）
東京都千代田区外神田3—16—12
（03）253—5151
（株）森 伝
東京都港区西新橋3—23—6
（03）433—4421
（有）ビジュアルブレーション
千葉市千城台西1—13—11
（0472）37—6608
（株）武藤精密
東京都板橋区熊野町43—14
（03）956—5176
（株）海 市
東京都中央区宝町1—3
（03）567—3511
浅野産業（株）
東京都千代田区鍛冶町1—10—10
（03）256—8947・251—2587
MAAM INTERIOR
マーム インテリア
東京都港区西新橋2—7—4 森ビル20
（03）591—8291・8292
寿屋木工（株）
名古屋市東区山田東町1—35
（052）721—0211

昭和エフキャスト（株）
福岡市東区箱崎5—11—93
（092）651—2931
ロイヤル（株）
名古屋市北区上飯田南町5—20
（052）981—9521
（株）西武百貨店家具装飾部
東京都豊島区南池袋1—28
（03）983—0161（内線3696）
西和インテリア（株）
埼玉県入間市狭山ヶ原松原108—15
（0429）34—1101
（株）北新合板製造所
東京都新宿区新宿2—8—1
新宿セブンビル4F
（03）352—6201
ユニオン装備工業（株）
埼玉県大宮市桜木町1—154
（0486）41—9861
日本板硝子（株）東京支社
東京都港区新橋1—8—3 住友銀行新橋ビル
（03）573—0121（内線240）
帝人リビングシステム（株）
東京都千代田区霞が関1—4—4
ニューダイヤモンドビル
（03）506—4874
（株）カスタムインテリアデザイン
東京都品川区西五反田7—22—17
東京卸売りセンタービル
（03）494—3307

新 加 入

（株）ワコール
インテリアファブリック事業部
東京都港区赤坂1—3 赤坂アビタミオンビル
（03）586—2131

編 集 後 記

この第69号の発行にあたりましてま
づ中部地区会員、賛助会員の皆様に厚
くお礼申し上げます。昨年暮からすで
に半年を経て、漸く発行になったわけ
ですがその間、長くなりすぎましたの
で途中の経過報告の便りをやらなけれ
ばと思いつつ過ぎてしまいました。ど
うなっているかと思われている会員の

方もあるかと存じますがお許し下さ
い。しかしとにかく中部会員の方々の
動向がわかっていただけるかと存じま

す。そして中部のみでなく、日本中の
会員の皆様とお話しの出来る場、顔を
合せる事の出来る場が、機関紙だけで
なくもっとほしいものと願っている次
第です。

ご協力賜りました会員、賛助会員
の皆様重ねてお礼申し上げます。

（林）

機関誌・J I D No. 69 定価 300 円
昭和50年3月発行 印刷 金名 鈴木活版所
発行所 社団法人 日本インテリアデザイナー協会
（〒150）東京都渋谷区神宮前2—3—16建築家会館3F
振替・東京・76389番 電話（03）403—3649

発行人・白石勝彦 編集 社団法人 日本インテリアデザイナー協会 会報委員会
担当理事 川上信二
委員長（関東）尾上孝一●三宅征郎・光藤俊夫・山岸証史・長谷川由紀子・諸富顕治
（関西）本田安治
（中部）林寅正●八代美智子・宇賀敏夫・安藤清
（九州）中川千年●香月寿一・堤 久夫

The Japan Interior Designers' Association

JAA-Bldg., 3-16, 2-chome, Jingumae Shibuya-ku, Tokyo, Japan.